

# 新中計策定、事業規模拡大へ 経営戦略を聞く

## 扶和メタル

扶和メタル(本社大阪府、勝山正明社長)は2019年12月期から21年までの中期経営計画を策定し、主力の鉄スクラップ事業の強化に加えて、同社がキーワードに掲げる「10年先を見据えた」新規事業の立ち上げなどにより、事業規模の拡大を目指す。何事もスピード感を持って取り組むたい」と語る勝山社長に、今後の事業展開などを聞いた。



勝山 正明社長

2000万トに向けて着実に進んでいくと手応えを感じ、今年から中期経営計画をスタートさせた。中計最終年度となる21年12月期には

「海外展開については、米・扶和」

# スクラップ扱い4割増

数量については同19%増と大幅に伸び、採算性も改善した。全体の取扱数量は減少したとはいえ、社長就任当初に目標とした既存事業・営業エリアでの「地固め」が進んだ結果だと考えており、今期は扶和メタル単体で取扱数量90万トを目指す。19年から3カ年

の中計を初めて策定した。「社長就任時から国内・米国内における既存事業を見つめなおすことからスタートした。当初、3年間を目標に体制強化や確固たる事業基盤の確立に注力してきたが、1年前倒しで達成し、将来目標としている年間取扱数量

「昨年、海外のスクラップ企業の買収を進めていた。最終的には断念したが、引き続き海外拠点開設に向けた調査を進めている。一方で扶和USAが展開する米田鉄スクラップ事業は、大手シッパーのコンテナ輸出入もあり、ビジネスの形を見直した。現地で契約したエージェント数人が中小規模を中心とした鉄スクラップ企業から直接買い付け、スクラップをその購入したヤードにストックして米国内や輸出向けに販売する戦略へと転換して、着実に成果も出ている。同時により付加価値の高い非鉄金属スクラップの取り扱いを拡充し、日本と米

「新規事業にも本格的に着手する。昨年100周年を機に『挑戦』をスローガンとして国内、海外問わず、チャンスがあれば鉄スクラップ以外の業種にも取り組むことを社長就任時の目標の一つに掲げており、新規事業としてドローンを活用した測量等のサービス事業を開始する。今年4月にはドローン事業を行う会社と合併で新会社『扶和ドローン』を立ち上げ、官公庁向けの公共測量のほか、建設コンサルタントやセンサーなどドローンのサービス事業となる顧客の開拓を進め、3年後には年商3億円を見込む。また、新規事業の立ち上げが本業の活性化にもつながればと期待している。

「新規事業については経営者だけの考えや取り組まではなく、社員のみならず意見・アイデアを取り入れることでの、社内全体でさまざまなアイデアを張り巡らしたいと考えている。実際に昨年12月に社員から新規事業の公募を募り、集まった15件のアイデアを、今年1月末の全体会議で社員のプレゼンテーションを行った。扶和ドローンの事業が軌道に乗れば、次の新規事業についても社員からの意見を集約しながらスピード感をもって検討していく」

「共業 シマブン コーポレーションとの3社連携『FKS』について。『発足してから3年近くがたち、各社や地域ごとの役割が明確になってきた。これまでは関東圏を中心とした輸出スクラップの共同販売がメインだったが、今後は3社で一丸となつてより大きな事業に取り組んでいきたいと考えている」

# スピード感持ち新規事業検討

「海外展開については、米・扶和」

「新規事業にも本格的に着手する。昨年100周年を機に『挑戦』をスローガンとして国内、海外問わず、チャンスがあれば鉄スクラップ以外の業種にも取り組むことを社長就任時の目標の一つに掲げており、新規事業としてドローンを活用した測量等のサービス事業を開始する。今年4月にはドローン事業を行う会社と合併で新会社『扶和ドローン』を立ち上げ、官公庁向けの公共測量のほか、建設コンサルタントやセンサーなどドローンのサービス事業となる顧客の開拓を進め、3年後には年商3億円を見込む。また、新規事業の立ち上げが本業の活性化にもつながればと期待している。

「新規事業については経営者だけの考えや取り組まではなく、社員のみならず意見・アイデアを取り入れることでの、社内全体でさまざまなアイデアを張り巡らしたいと考えている。実際に昨年12月に社員から新規事業の公募を募り、集まった15件のアイデアを、今年1月末の全体会議で社員のプレゼンテーションを行った。扶和ドローンの事業が軌道に乗れば、次の新規事業についても社員からの意見を集約しながらスピード感をもって検討していく」

「共業 シマブン コーポレーションとの3社連携『FKS』について。『発足してから3年近くがたち、各社や地域ごとの役割が明確になってきた。これまでは関東圏を中心とした輸出スクラップの共同販売がメインだったが、今後は3社で一丸となつてより大きな事業に取り組んでいきたいと考えている」